



化学部門教員と大学院生らが教育支援センター「くすの実」で 理科実験教室を実施(6)

【概要】

令和4年11月18日(金)に、不登校支援機関の教育支援センター「くすの実」にて理工学部 長田 聡史 教授が、先進健康科学研究科(理工系)の大学院生らと本年度最後の理科実験教室を実施しました。

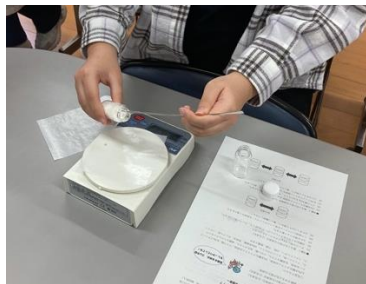
【本文】

理科実験教室支援活動は、佐賀市教育委員会の不登校支援機関である教育支援センター「くすの実」の要請により、理科への興味をきっかけに子ども達の就学意欲の芽生えを目的として行われています。

令和4年度第6回は、理工学部化学部門 長田 聡史 教授と先進健康科学研究科先進健康科学専攻(理工系)の大学院生らによって、「これで君もマジシャン!?～色が変わる溶液～」と題して開催されました。

実験では、振ると色が変わる液体や振動反応として知られる周期的に色に変化していく溶液反応を子どもたちに行ってもらいました。振ると色が変わる液体では、無色と青色に変わる液が何度も繰り返し行くと微妙に色調が変化していく様子を報告してくれました。また、熱心に観察していた子が、「いつまで続きますか?」、「グルコースを追加したらまた続きますか?」と興味津々に質問を繰り返す子ども達の反応をみて、実験準備をしてきた大学院生たちも喜んでいました。さらに子供たちは、異なる色素を使った実験でより派手に赤や緑に変わる様子を見て楽しんでいました。最後に行った振らなくても色に変化する振動反応では、心拍、睡眠、生理と関連づけて体内で周期的に起こる現象について考えてもらいました。

最後に、教育支援センターの計らいで参加者全員の写真撮影をして、今年度最後の理科実験教室を終えました。



「理科実験教室」の様子